

秘書官

情秘第 三九一 號

昭和十三年六月十一日

愛知縣知事 田中廣太郎

内務大臣 末次信正 殿  
外務大臣 宇垣一成 殿  
大藏大臣 池田成彬 殿  
陸軍大臣 板垣征四郎 殿  
文部大臣 荒木貞夫 殿  
商工大臣 池田成彬 殿

内閣改造 = 對スル各方面

ノ意嚮 = 關スル件

今次断行ノ内閣改造 = 對スル前報以外ノ各層

代表ノ意嚮左記ノ通り = 有之  
右及申報候也

民政党 代議士 塚本 三

陸軍側ハ支那事変前迄ソ聯ガ内容ヲ整備シ居  
リ殊ニ軍備ニ於テハ産業五ヶ年計ニ名ヲ藉リ  
擴充強化セルモノト見解ヲ有シテ居ツタ模  
樣アリアルガ軍需工業ノ發達ニ及シ農村等ハ著  
シク疲弊シ然モ思想的動搖ガ甚カシキ爲戦争  
ニ導クコトヲ極力避ケ支那支援スルニトヨ  
ル帝國々力ノ消耗ニ最善ノ努力ヲナシ我國ノ  
支那事変ニ對スル即決主義ヲ延引セシメツ

此封筒は本邦内政系停刊雑誌  
昭和十三年六月十一日  
田中廣太郎 閣下 謹啓

アル現状ニ鑑ミ事変解決上ノ必要ヨリ茲ニ内閣ノ改造ニ當面シタノデアアルガ過般ノ改造ニ就テ宇垣外相ハ朝鮮總督時代ニ荒木大相トノ折合ヒ悪カリシ為メ此ノ莫ニ心配シタ向キモアリタルカ今日ノ非常時局ニ對スレ觀念ハ個人的ノ立場等ヲ織込ム場合ニ非ズトシ兩者相容レテ閣員タリシ等ハ軍部内ニ於ケル融和ヲ計ル最モ適任者ト思ハレ政府ハ愈々強化サレ流石近衛首相ノ手腕力量ハ見ルベキモノデ古今ノ例ナキ一流人物ガ網羅サレタト云フベキデアアル近ク五相會議等ヲ開催シ對支政策ヲ協議サルハ模様ナルモ板垣宇垣ノ施政方針ニ摩擦ノ生ゼザル事ヲ念願スルモデアアル

代議士 推尾 弁 匡

過般行ハレタ内閣改造ハ世評ノ如ク戰時体制下ニ於テ之ヲ整備充實シ所謂長期戰時体制第一ニ段階ニ即應シタル内閣ノ強化ト云ヒ得ル宇垣大將ヲ入閣セシメタルハ議論ハ兎モ角一般國民的ノ期待ヲ充足セシメタル點ニ於テ大收獲ト言フベク今更異論ナキ處デアアル荒木大將ハ其ノ持前ノ新味ノ施政ヲ實現スル點ヨリスレバ時局下ニ於テ最モ重要ナル傷兵保護事業其他戰時體制整備遂行上緊要ナル厚生相ニ廻スヲ至當ト思フガ木戸厚相ノ希望ガ優先的ニ容レラレル處トナリ文相ニ落着イタ

様デアル池田ノ大藏商工両相兼任ハ刻下ノ我  
國ガ支那事變ヲ通ジテ大陸政策遂行ノ成否ニ  
影響スル秘國財政經濟國策ノ具體的實現ニ當  
リ實質上ノ適格者タルハ論ナキ所デアルト思  
フ。

貴族院議員 下出 民義

現内閣ノ改造ハ久シキ以前ヨリ傳ハラレ識者  
ノ間ニ於テハ改造カ終辭職カト懸念セラレ居  
タルガ頗ル難事トスル改造ニ成功シタルノミ  
ナラズ我國一流人物ヲ入閣セシメタト云フコ  
トハ近衛首相ナラバ出來ナイ事デアル陸軍  
大將荒木貞夫ノ文部大臣就任ノ良否ニ付テハ

判断ガ付カナイガ仄聞スル処ニ依ルト三月位  
前カラ入閣運動ヲシテ居タト云フ事デアリ垣大  
將ノ入閣ニ就キ軍部關係ニ依リ入閣スルニ至  
リタルモノト思フ。

今面ノ内閣改造ニ當リ陸軍大將守垣一段ヲ外  
務大臣ニ起用シタコトハ大莫断デアリ又型破  
リノ人事行政デアソト思フ。

今日迄ノ我國傳統的な外交方針ハ親歐米追隨外  
交方針デアツタカ幣ニ外交官ヲ起用シタル関  
係上國際聯盟脱退後ニ於テモ独立自守外交方  
針ヲ樹ソルニトヲ得ザル状態ニ置カレタモノ  
デアツタカラ茲ニ人格識見ヲ兼備スル首相級  
ノ人物ヲ据ヘタト云フ事ハ近衛内閣ニ一段ノ

強サヲ加ヘ外國ヘノ響キハ大ナルモノガアツ  
タト思フ。  
殊ニ又那人ノ肩書ヲ尊重スル國民ナルヲ以テ  
陸軍大將ノ肩書ハ睨ヲ利カス事トナリ歴代ノ  
外務大臣が解決シ得ザリシ對支外交モ既定方  
針ノ下ニ邁進シテ東洋永遠ノ平和ヲ確立スル  
ニ最適任者デアルト共ニ期待スル處モ亦大ナ  
ルモノガアル。  
今次改造ノ重大意義ハ商工大藏兩省ノ一元化  
ヘノ前提ノ実デアラウ。  
戦時体制下ニアル我國産業經濟貿易ノ國策ハ  
何レノ人物が入閣シテモ其ノ根本方策ハ斐ラ  
ナイト思フ。

尙故テラバ物資不足ノ為自給覺束ナク我國  
ハ貿易ヲ中心トセテ正貨ノ國外流出ヲ防カシ  
定應ハ悪化ヲ防止シ正貨ノ國外流出ヲ防カシ  
クテハナラヌカラテアル其処ニ今日大藏省ノ  
方針がアリ軍需必要資材ノ輸入ハ別トシテ所  
謂平和産業輸入品ニ強カナル統制カ加ヘラレ  
ルハテアル。  
斯様ニ吾國ノ國情カテシテ當然ナサネバナラ  
ズ又國民トシテモ認メテテナラヌ又國策  
ヲ行ツテ來テ居ルノテアツテ理論ノ上カモ  
當然反對スベキモノデアリナク然シ遺憾ニ思  
ハレルハ我國今日ノ商工大藏兩行政ハ特ニ  
産業經濟貿易上切ソテモ切レヌ聯繫關係ニア

ナク又是ヲ期待スルノデア  
 池田入閣ハ此ノ両省ノ一  
 人運用ヲ一新シ實際ニ則  
 易上ハ欠矣是正ニ進ムト  
 價高ノ抑制ト輸出振興策  
 近衛首相ハ時局ニ鑑ミ大  
 ヲ断行シタルガ其ノ顔觸  
 化ヲナク對外政策強  
 虎ノ立場ヨリ批判スハ反  
 トスル武官政治ニハ反對  
 社大党名古屋支部長西浦  
 内閣改造  
 以テ内閣強  
 論不レ内閣強  
 策アリ吾々政  
 策荒木兩人ヲ中心

リ一ニ化スル必要ニ迫  
 之レガ聯繫ヲ欠キ實際  
 レテ居ラヌ例ハ今日軍需  
 先權ガ認めシ商工省ハ  
 不足ニ困窮シ省ハ之レガ  
 針ナルモ大藏省ハ自  
 シテ譲ラズ輸入ヲ許サ  
 ノ如キデアレバ許サヌ  
 此ノ矣我國産業經濟貿易  
 至リ近衛首相ハ之レヲ祭  
 的機關化ヲ考慮シ池田  
 檢討ヲ加ハル方針ニ出  
 兩相兼任ハ兩省一元化  
 前提ト考ヘテ間違ヒ

日=於テハ武官政治モ亦コムヲ得テイ處デ近  
衛内閣ハ一面戰時内閣ト称シテモ過言ハナ  
イ口=革新政策ヲ唱フルモ吾々國民大衆ノ要  
望スルカ如キ廢政革新政策ノ漸行人現在ノ機  
精分守垣大將ノ外相就任ハ鬼角軍奇國民商  
次=守垣大將ノ外相就任ハ鬼角軍奇國民商  
於テ軟弱外交是正ヲ唱ハラル、今日至極適當  
ヲ必ズヤ強硬外交主義ヲ以テ東洋平和確立  
邁進スル事ト思フ  
荒木ノ文部大臣モ戰時下ノ今日皇道精神ヲ  
祖總元締トシテ全大將ノ就任ハ適當ナルカ  
文毅刷新ニテ々々對シテハ余リ期待ヲカケル事  
ハ出來ヌ

池田ノ藏相モ亦戰時下ノ我國敗政々策上己ム  
ヲ得ヌ処デアレ之レハ曩=賊閥ヲ排斥シ自由  
資本主義政策ヲ排除シ來リタル軍部ガ滿洲政  
策ノ失敗=醒メタル結果資本主義經濟=轉向  
シ我國賊界ノ大御所池田ヲ藏相=就任セシメ  
支那政策ノ強化及資本主義經濟ノ強化ヲ囿ラ  
ントスル意圖アリ吾々無産大衆=ハ余リ歡  
迎ハ出來テイ於戰時下ノ今日如斯ノ政策強化  
主亦己ムヲ得テイ處デアル  
杉山前陸相ハ現狀維持派ヲアリ事斐下ノ陸相  
トシテハ聊カ物足りナサヲ感シ居リタル矢先  
突然板垣中將ト更迭シテ外ノ至極適當ト思フ  
今田ノ陸相ハ更迭ハ曩=鬼角風評セラレタル

對支外交ニ就キ杉山陸相広田外相等ハ中心ト  
ナリ獨逸國ヲ介シ蔣政府ニ對シ日支紛争事件  
ニ對スル厥ヲ引キ失敗シタル軟弱外交ノ責ヲ  
アリ一般民衆及軍ノ一部方面テハ政府ノ對支  
政策ニ付其ノ軟弱サヲ非難シ且ソ本年初頭杉  
山広田兩相ノ外交ハ蔣政權潰滅ヲ引延シ延命外  
交ヲアルト判マシ流布セテタル処テ陸相ノ  
更迭ハ蓋シ當然ト云フベキデアリ  
吾々ハ新板垣陸相ガ人モ知ル陸軍切ツテノ急  
進派テ且支那ニハ多クノ經驗ヲ有シ居ル處ヨ  
リ日支事變ノ徹底的解決ヲ期待シテ居ルモノ  
デアリ云々

日本論叢社東海支部長

吉橋丈太郎

長期戦ニ對應スル爲近衛首相ハ内閣改造ヲ斷  
行強化シタルガ新閣僚ノ顔觸ハ何レモ適材テ  
アルト思フ  
守垣ノ外相ハ現下戦時外相トシテ恥シカラザ  
ル人物デアリ今事變ノ敵ハ決シテ支那ニ非ラ  
ズ英ソ西國ニ在リ  
シテ英ソ西國ニ在リ  
テテ硬積極化スルカ或ハ對ソ政策ニ如何ナル  
ヲ腕ヲ振フカハ一般ノ期待スル處デアリ  
池田新藏相兼商相ノ過去ノ史ヨリ推シテ適



在テアリ共ノ手腕ヲ以テスレバ  
 即シク政策ヲ以テ産業経済ヲ一  
 給ノ調節取キヲ得テ今後ノ取  
 化サルコトデアラシクハ文相ナ  
 荒木新文相ノ如何ニ付テハ相  
 後ノ教育方針如何ニ付テハ相  
 処テアルル  
 現在ノ教育方針ヲ考フル時悉ク  
 テアリ自由主義的個人主義的  
 等ノ教育方針ヲ刷新スルニ荒木  
 ナルト共ニ今後ノ教育方針ノ一  
 望スル次第アル云々

一、教育方針の刷新  
 二、教育の自由主義的個人主義的  
 三、教育の刷新  
 四、教育の自由主義的個人主義的  
 五、教育の刷新  
 六、教育の自由主義的個人主義的  
 七、教育の刷新  
 八、教育の自由主義的個人主義的  
 九、教育の刷新  
 十、教育の自由主義的個人主義的





名古屋株式取引所

調査課長

今井 健次

徐州大會戦後ノ新事態ニ對處スル為曩ニ内閣ノ大改造ヲ断行シ池田宇垣龍木ノ巨頭ヲ入閣セシメテ政府ノ陣容強化ヲ圖ツタガ今回更ニ杉山陸相ノ代リニ板垣中將ヲ陸軍大臣ニ起用シ近衛内閣ノ陣容ハ全ク整備シテ新段階ニ入ツタ

事変ニ對處スル事案ハ今後逐次確立實現サレルモノト思フガ陸相更迭ハ曩ノ大改造以前ヨリ專任厚相決定ト全時ニ更迭サレルモノナリト噂サレテ居タモノニシテ週報ノ陸軍次官更迭ト全時ニ杉山陸相ニ代ルニ板垣中將ノ登場

ガ傳ヘラレテ居タノデ市況ニハ陸相更迭ハ兪込済デ本日三日更迭ノ發表アルモ主力株タル東新ニ於テ後場ノ如キハ値幅ノ動キ僅カ四十六銭ヲ寄付大引全値ト云フ状態デ第ニ都立會ノ銘柄ノ如キハ殆ンド申サズノ状況デ株式ハ何ト云ツテモ藏相ノ更迭ナレバ相當ノ反響アルモ其他ノ大臣デハ余リ反響ガナイ

然シテ新陸相板垣中將ハ林内閣當時陸相候補ノ下馬評アリ其ノ當時ハ急進派ノ先鋒トシテ喧ラク云ハレタガ今日中將ノ入閣ヲ見テモ財界方面デ騒ガナイノハ財界人ノ時局認識ト時ノ流レガ然ラシムルモノト思フ云々

昭和三年六月拾六日接受

情報部

第三課長了

外成第一四三八號

昭和十三年六月十一日

第一課長了

大阪府知事 池田

清

第二課長

内務大臣 末次信正 殿

外務大臣 宇垣一成 殿

陸軍大臣 板垣征四郎 殿

海軍大臣 米内光政 殿

警視府 北海道 神奈川 愛知  
京都 兵庫 山口 福岡 長崎  
各 廳 府 縣 長 官 殿

(中)

内閣改造ニ對スル上海英字紙ノ

論調ニ關スル件

上海ノノースチャイナビル内北支時報社發行

日刊英字紙

ノースチャイナデーリーニュース  
North-China Daily News

右新聞紙本年五月二十八日号ニ「日本の新内閣」ト題ス  
ル社説掲載セルヲ以テ譯出スルニ在記ノ通りニ有之由  
参考迄ニ  
右及申(通)報候也

記

日本の新内閣

要旨

一、内閣改造により軍部の統制力は一致と強化した。目的に値するは宇  
垣大將の復任であるがその外相就任は青年將校の外交問題容喙を  
阻止する為と見られる。其もある。  
二、免し申新内閣が現行憲法に對する統制力を強化し言行一致を實現す  
るニヒキ期待される。

長らく期待されてゐる日本の内閣改造は遂に實現を見え  
が、大体に於て一般の予想通りである。その一結果として日本  
の陸海軍部は従来よりも一段とその統制力を強化し、又官

閣僚は數を減ずるに至つて、恐らく最も驚くべきものは宇垣大將の外相就任である。宇垣大將は陸軍保甲派の大立者であつたが師團縮少の責任の爲に人望を失墜し、昨年組閣を命ぜられた際、陸軍首腦部の反対に遭つて、四日間折衝を重ね、遂に打圓の道を発見し得ず、組閣は失敗に歸した。今回宇垣が總ての肥田の地位を陸海軍の占める内閣に入り、外相に就任したといふことは何等かの理由で彼が人望を回復し曾て彼に猛烈に反対した人々の信頼を勝ち得たことと物語るに他をうない。荒木大將の任命は重大な意義を有つてゐる。蓋し軍人が一國の文敎を掌るといふことは異例だらうである。

彼が文相に任せられたのは日本人の教育を長期戦に対応せしむべく改革する為と恐らく一層重要なことは教育の發展が他國に於るが如き自由主義思想の線を出らないう様にする為であるとし、推測するよりは様がない。その結果は

内二

陸海軍が今や政府の行動を完全に統制し、之を自己の思ふ通りにするであらう（文武両政策の妥協を齎さうとはせずして）ことは想像に難くないにしても、命敎の諸新聞が信じてゐる様な軍部独裁ではないかも知れない。曾ての大三井財閥の天才的指導者池田氏の入閣は日本の經濟機構を更に完全に陸海軍の要求と徹底的戦争遂行政策に対応せしむべく之を再組織する必要を物語つてゐる。徐州陥落以来、日本の有力紙は急遽漢口を衝くべしと主張して居り、それによれば漢口占領は支那政府の崩壊、従つて又この高價な戦争の終結を招来するものと信じられてゐる模様である。將來の戦果には廣東占領も包含されるべしと論ずる向もあるが、若し斯る甚大な計劃に果出すとすれば、更に大なる日本兵力の使用は日本の新内閣がもつた露西亞を極東政策に於る重要因子と看做さないうことと意味すると考へられ、かも知れない。しかし此の論據は次の如く修正されねばならない——日本参謀本部は既に近き露西亞の協同威に對するべき能力を必ず

しも弱めずして戦争を急遽に終結せしめるに足る力を有してゐると信じてゐるかも知れない。而して此の信念は露西軍が戦闘に使用し得る実効を日本が知つてゐるからと云ふよりは寧ろ防共協定に含まれた何等かの秘密條項に基くものかも知れない。がそれかどうかであるにせよ、現在行はれた受革並に事態の斯る發展の爲に過去數ヶ月間行はれ来た運動<sup>運動</sup>から一つの事實が前面に浮ひ出る。同盟通信は「斯る改革は日本が現在の危機を重大な反作用なしに切抜けるべき能力を補強するに相違ない」と述べてゐる。戦争中既に日本として多大の國帑を費さしめた。更に大なる兵力の使用によつて戦争が速かに終結を告げるか、或は現在戦地に於る兵力を以て持久戦となるか、その何れにせよ日本がその國民の期待する勝利の終局にこの戦争を導くに成功するまはたは遂に大なる國帑の費されることは明かである。

附三

多數の小工業を戦争遂行への主要任務に従属せしめることは既に國民の経済生活に或種の影響を及ぼした而して日本の屬風な産業、経済生活に對する損害を極力少くする様な政策を樹立することが正統派経済學の代表者たる池田氏の任務。一つであらう。それは並々ならぬ仕事である。蓋し戦争が長期に亘れば直ちには直ぐの直面する諸問題は重層を加へてくるからである。宇垣大將の外相就任は「青年將校」一派の外交問題容喙を阻止せんが爲に採られたものかも知れない。この一派の一般的能力を考慮に入れるなら、池田氏は恐らく現在採り得べき最善の策である。勿論外國のネブサーヴァーは廣田外相の代つて軍人が外相に就任したことが日本外交政策の何等かの轉換を齎すかも知れない。爲に新外相の最初の發言を待つがらう。新外相は廣田氏の政策を踏襲するだらうか、肩又全く新しい且つ陸海軍の一般的态度を信ぜられらるものに一層調和した何物かを工作するだらうか。例之在支中立外國人。權益尊重に拘り新外相の口から更に保証

を其えるなりば、しかもそれが軍部の指導者——それは言行一致を以て知りれり居り、藤田氏は明にさうでなかつた——かうであらねば一般の好評を得るであらう。尤も今回の新内閣が前内閣以上に現地の將校を統制し得るか否かは、今後、俟たねばなりぬ。しかし斯く如く陸海軍の障材を内面に列せしめた以上、ヨリよき統制が確保されるであらうことは期待するに難くない。若しさうなれば、従来幾多の不評を買った多くの慣行の廃止が期待されよう。少くとも次の一筆は確実である。即ち改造内閣の有力新人物が、少くとも口約と実行とが一層合致すべきことが望まれらるることである。

以上

西四

情報部

第三課長

第三課長

第一課長

機密第一九二號

昭和十三年六月廿三日

在齊々哈爾

第二課長

總領事代理

瀧山靖次郎

在滿洲國

特命全權大使

植田謙吉殿

中

板垣中將ノ入閣反響ニ關スル件

板垣中將入閣ニヨル當地ノ反響何等御參考迄ニ左記ノ通報告申進ス

昭和十三年六月廿八日接受

記

一 滿蒙人ノ意向感想

滿蒙人ハ板垣中將カ永年在滿要職ニ在  
リ滿支事情ニ通曉シ居ル事及其手腕力  
量ニ對シ多大ノ期待ヲ有テ時局柄最適  
任タリト勸迎シ居レルカ一二有力者ノ  
言ヲ攀クレハ  
齊々哈爾地方院長ハ板垣中將ハ富  
韜ナル典型的軍人ニシテ中國ノ事情  
ニ通シ居リ今次ノ陸相就任ハ日支事  
變ニ全カヲ發揮シ蔣政權ヲ潰滅セシ  
メ以テ徹底的ニ東亞ノ和平ヲ期スヘ

シト語レリ

2. 在齊々哈爾濱回教徒國民學校校長馬子寬  
ハ板垣中將カ滿洲事變ニ當リ其ノ英  
才ヲ發揮シタルハ我々ノ承知スル所  
ニシテ曾テ關東軍參謀長ノ職ニ在リ  
我滿洲トハ深キ關係ニアリ更ニ同中  
將ハ中國事情ニ通曉シ今次ノ陸相入  
閣ハ一層内閣ヲ強化シ徹底的蔣政權  
ニ對シ膺懲ヲ加フヘシト言ヘリ

3. 在齊蒙人阜海ハ板垣中將ハ關東軍參  
謀長在職中自分ハ曾テ會見シ其ノ風  
格ニ接シ居リ誠ニ多年在滿要職ニ在

リ其ノ手腕經驗ヨリシテ強力近衛内  
閣改造ニ際シ入閣スルハ必然ナリ日  
支戰局ニ一般ノ強化ヲ加ヘ蔣政權ノ  
没落ト共ニ背後蘇聯ノ魔手ヲ驅逐セ  
ラレ東洋永遠ノ平和モ時間ノ問題ナ  
リト觀迎セリ

二 在任日鮮人ニ與ヘタル反響

滿洲産ミノ親板垣中將ノ陸相入閣ハ時  
局柄最モ意ヲ強フスト頗ル好感ヲ以テ  
勸迎シ居リ此ノ際内閣強化ニ依ル對外  
關係ノ調整コソ最モ緊要事ニシテ今次  
陸相トシテ入閣サレタ板垣閣下ハ大陸

ノ事情ニ通シタル強カ人物ニシテ内閣ノ鞏化ハ勿論國際的ニ日本ノ威カヲ更ニ強メル結果トナリ滿洲トシテハ建國ノ功勞者ニシテ滿洲ニ理解アル同中將ニ對シ大ナル期待ヲ懸ケテ居レリ

三、白系露人ニ與ヘタル反響

板垣陸相ノ入閣ニ對シ在任白系露人ニ與ヘタル反響ヲ内查スルニ同中將カ東亞ニ於ケル日支兩國ハ同文同種ニシテ地理的及歴史的ニ密接ナル關係ニアリ須ク共存共榮ノ下ニ進ムヘキ筈ナルニ中國ハ東亞ノ大勢ヲ顧ミス聯蘇容共

反滿抗日ニ走り日本ト事ヲ構ヘ徹底的膺懲ヲ受ケ連戰連敗セルニ拘ス長期抗戰ヲ高唱セルハ誠ニ痛恨ニ堪ヘス近衛首相ハ蔣政權ノ盲目的抗戰ニ鑑ミ更ニ徹底的ニ膺懲スヘク内閣ヲ強化シ板垣中將ヲ陸相トシテ入閣セシメタルカ同中將ハ中國事情ニ通シタル力強キ人物ニシテ今後日支事變ハ更ニ進展シ所期ノ目的タル東亞和平ノ日モ近キニアリ

ノ在齊白露人「チエツプリン」ハ今次入閣セラレタル板垣中將ハ支那事變以來早クヨリ現地ニアリ赫々ノ武勳ヲ擲テラ



レタル人ニシテ陸軍大臣ニ陸軍ノ將軍  
カ入閣スルハ當然ナルカ特ニ支那ニア  
リ自ラ直接支那事變ヲ指導シ支那事變  
ノ戦局ニ通スル將軍カ入閣セラレタル  
コトハ日本政府ハ支那事變ノ解決ニ對  
シ最も重點ヲ注キツツアル證在下思ハ  
ル云々ト語レリ

本信寫送付先

外務大臣、哈爾濱、  
新京、吉林、奉天、  
白城子、海拉爾、  
滿州里、黑河



公 信 案

外 務 省

得申更定候 謝意の旨に度此段回答之

討之旨に平議 謝意の旨に度此段回答之

主信	/	/
附甲	/	/
乙		
丙		
丁		
備考	...	

秘書官

譯文添附

大文法行

文書課長

文書課發送 昭和拾陸年六月廿二日 發送済

主 任 主

昭 和 十 三 年 六 月 十 七 日 起 草

信 機 通 密 昭 和 拾 陸 年 六 月 廿 八 日 附 附 屬

在 在 在

名 人 信 受 在 在 在

名 件 錄 記 帝 國 内 閣 参 事 任 雜 件

名 人 信 發 小 平 恒 大 臣

外 務 大 臣 就 任 祝 賀 討 謝 表 謝 状 件

今 般 外 務 大 臣 拜 命 際 上 御 座 上 祝 詞

御 座 上 祝 詞

外 務 省

Le <sup>20</sup>~~18~~ juin 1938.

Introduction

Monsieur le Consul,

Par lettre en date du 28 mai dernier, vous avez bien voulu m'adresser vos chaudes félicitations, à l'occasion de ma nomination comme Ministre des Affaires étrangères.

J'en suis très touché et m'empresse de vous exprimer mes remerciements les plus sincères.

Veillez agréer, Monsieur le Consul, l'assurance de ma considération très distinguée.

( K. Ugaki )

Ministre des Affaires étrangères.

昭和十三年六月廿七日

情報部

外秘第一五一五號

昭和十三年六月二十一日

大阪府知事 池田 清

第一課長

内務大臣末次信正殿  
外務大臣宇垣一成殿

巡視府北海道 神奈川 愛知  
兵庫 福井 山口 福岡 長崎

各廳 縣長官殿  
大阪地方裁判所 檢事正殿

内閣改造ニ對スル蘇紙ノ論調ニ関スル件

本月三日附蘇紙「アラウタ」所載「國際時評」ニ  
題スル記事ヤ我國、内閣改造ニ對スル論調を記

説文ノ通りニレテ這般、内閣改造ノ目的ガ對支長  
期戰、準備デアルト云々日本ノ支配的陣營ニ於ケル  
侵略者軍部ノ勢力強化ナリト述ベ居レリ。御参考也  
右及申(通)報修也

記

五月末行ハれタ日本内閣ノ改造ハ衆目モ若シマ。特ニ  
宇垣荒木 兩相ノ滿將軍ノ入閣ガ顯著ナル有ル宇垣  
ハ外相荒木ハ文相 板垣ハ陸相ニ有ル。

外字紙ハ改造内閣を戰爭内閣ト評シテ有ル。改造ノ  
目的ハ外字紙ノ意見ニ據レハ徹底的對支戰爭ノ  
繼續ニ有ル。タイムスハ内閣改造を如ク評シ  
ル。陸州ノ支那大軍包圍作戰ノ失敗ニ鑑ミ日本  
帝國主義者ハ厚顔にも長期戰ヲ備ヘル覚悟を決  
ス。近衛内閣改造ニ因シテ也。理由ハ考ヘラレタリ。

改造の目的が戦争の強化繼續である事は疑ふ余地がない。

内閣改造が支那に於ける最近の失敗と國內に擡長した不滿の直接の結果なる事は極めて明かである。軍部はこの失敗の責任を文官閣僚に轉嫁せんと試み飽無き侵略の方針を固持してゐる。他面に於て軍部は國內に於ける「愛國精神」の昂揚に奔走すべく決心した。この方面に於ける第一歩は既に為された。対支戦争と「聖戦」と稱して居る事がある。之れに因して「タイムス」は諷刺をまわして「戦争」の神聖性は多分その失敗に對する慰籍となるがうしろと述べてゐる。

新たに外相に任ぜられた宇垣も余り樂觀論を表明してゐない事は甚だ特異である。新聞に發表された聲明に於て彼は戦争は永いさ且つ支那に勝つのはまだ遠い事のことであると明瞭に説明して彼の曰く「支那

(二)

は長期戦に慣れてゐる。その廣大な領土を占領する為には莫大な人的犠牲と巨額の出費を要する。故に支那の遠隔地方を占領する必要はない。唯だ支那の最重要な地帯を我が勢力下に置き置けば良い。

近衛内閣の改造は疑いもなく日本侵略者の内部的弱点の証左。日本帝國主義の増大せる困難の反映である。他面から新内閣の顔振は日本の支那的陣營に於ける極端な侵略論者の勢力の強化を証明してゐる。(下略)

以上

分類 15.10.2

(分類)

16767

電 信 案	二十四日日本大臣拓務大臣兼振令セラレタリ	普通情報	普通情報(第)	電送第	16791 號	管 主 情 報 部 長
				昭和	13.6.24 日	
外 務 省				名	件	任 主 第 一 課 長
				宛	宛	
				合第	204	昭 和 十 三 年 六 月 二 十 四 日 起 草
				口	口	
				號		
				名件録記		
					廣 田 大 臣	

電信課長

發電係

第一課長

24 37

①

情報部

第三課長

昭和三年八月拾參日接受

普通第一六八號

昭和十三年七月十二日

在瑞典

特命全權公使栗山茂

第一課長  
第二課長

外務大臣 宇垣一成殿

内閣改組ニ関スル新聞論說報告ノ件

過般内閣改組ニ関スル北政諸國新聞ノ論說大要左ノ通報告ス

瑞典コアラトンプラデーツ紙(六月一日)

日本ニ英米紙ノ豫期以上ニ長期戦ニ堪ヘ得ル能力アリ徐州

ヲ中心トスル日本軍ノ軍事行動ニ正ニ作戰上大傑作ナリ戰

争ニ関スル英米系報道ニ事實ノ證明ナリレコト當テ世ニ

在瑞典日本公使館

1.5.10.2

今日迄ノ戦争ハ單ナル序幕ニ過キスルテ最近ノ内閣改組ニ依  
リ宇垣大將ヲ外相ニ、板垣中將ヲ陸相ニ、荒木大將ヲ文相ニ  
置キタルハ非常時對策ノ準備ヲナスト共ニ斷固タル決意ヲ示  
スモノナリト云フ(一)

瑞典コアラトンプラデーツ紙(六月十一日)

列強ノ抗議ニ不拘日本ニ廣東空爆ヲ續行スル内閣改組

ニヨリ宇垣荒木兩大將入閣シ軍部ハ國家主義的勢力

ニ遂行スルナラム歐洲ニ目下自己ノ不安ニ没頭シ蘇聯亦攻撃

ヲナスノ危険ナリト見シ居リ日本ハ今後更ニ強硬ニ處置ニ出

スルヤ之知レス

諾威コアラトンプラデーツ紙(五月二十九日)

日本内閣ノ今回ノ改組中注目スルハ外務文部兩大臣ニ軍

在瑞典日本公使館

人ノ就任ヲ見タルトシテ日本ハ徐州ニ快勝セリト雖モ猶其對  
 支行動ハ終末ヲ告ケタルニ非ズ戦争ノ終局ハ尙前途遠  
 ルニ及シ日本ノ貿易ハ益々悪化スル傾向アリ茲ニ政府ニ切  
 能力資源ノ結合ノ必要ヲ痛感シ遂ニ軍部ニ指導ヲ委ネ  
 以テ末ニキ非常時ニ對シ準備ヲシテアリ

諾威「アランポステン」紙（六月八日）

改組ノ結果成立セシ新内閣ハ日本カ對支戦争ヲ徹底的ニ遂  
 行セントノ意思ヲ表シ居ルモノナルカ新ニ陸相ニ就任セシ板垣  
 將ハ戰地將士ノ為盡力レ且其ノ希望ヲ參酌セントノ意向ヲ  
 有シ居ルノ最近材料ノ莫斯科訪向ノ結果支那ニ蘇聯  
 ヲリ莫大ノ軍事的援助ヲ受ケントナリ且趣ケルカ右カ如何ノ  
 程度ニ實現スルヤ不明ナルモ多分ニ可能性アリ右ハ板垣中將ノ  
 任務ヲ複雜ナラシメント共ニ其任務ヲ一層明確ナラシメント

在瑞典日本公使館

立ヲヤモ知レヌ

在瑞典日本公使館